

研究概要

学習評価
事後研究会
CAミーティング

授業実践



一人一人が
自己の学びを実感し
生活していく姿を求めて

— 学習評価に基づいた
主体的・対話的で深い学びの実現 —

山形大学附属特別支援学校 令和3年度 研究概要

1. 研究計画（2年次／4年計画）

研究内容（1）知的障がい教育における主体的・対話的で深い学びの在り方を探る。

研究内容（2）授業実践と学習評価の手続きを明確化する。

1年次【試行】

- ・ 新研究についての共通理解
- ・ 学習評価に関わる研修
- ・ 学習評価を踏まえた授業づくり（学習指導案への評価方法・評価場面の明記）
- ・ CAミーティング試行（Check→Actionにつながる学習の振り返り方法の検討）

2年次【基礎】

- ・ 学習評価の視点からの「**主体的・対話的で深い学び**」の検討及び実現する学習活動と支援の在り方を探る
- ・ 子供の学びを効果的に授業づくりに生かす手続きの考察と実践

3年次【定着】

- ・ 知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の視点からの実践の蓄積
- ・ 社会に開かれた教育課程に関する実践
- ・ 授業実践と学習評価の手続きに関する実践

4年次【深化】

- ・ 知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のポイントまとめ
- ・ 社会に開かれた教育課程の実現についてのまとめ
- ・ 研究実践の発行

一人一人が自己の学びを実感し生活していく姿・研究の日常化へ

2. 前年度の成果と課題

研究内容（1）知的障がい教育における主体的・対話的で深い学びの在り方を探る。

<成果>

- ・ これまでの学習活動等の在り方を多面的に見直す視点を持ち、**子供への多面的な見方、多様な授業の在り方を検討することができた。**
- ・ 教員の子供の内面の見取りの深まり、**主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりへの意識の高まりが見られた。**

<課題>

- ・ 継続的な PDCA の在り方、系統性のある学習計画を検討する必要がある。
- ・ 特に各教科等を合わせた指導において、**各教科等との関連を一層明確に**していく。
- ・ 様々な実践を積み重ね、一人一人の資質・能力を育成するための「**主体的・対話的で深い学び**」の在り方やそれを支える**指導・支援方法（ICTを含む）**を探っていく。

研究内容（2）授業実践と学習評価の手続きを明確化する。

<成果>

- ・ 学習指導案の学習評価の視点により、児童生徒の具体的な学びの姿をイメージした授業検討、**目標と整合性の検討**ができた。
- ・ 学習評価の視点により、教師の発問の仕方や支援方法等に関する**指導と評価の一体化への意識、授業内容が明確化**した。

<課題>

- ・ **単元全体での評価計画、単元後の振り返り**を行う等、評価を改善につなげていく必要がある。
- ・ 一時間の授業に限らず、**単元全体を通して資質・能力を育成していくための授業づくり**、単元での学びを振り返り、その後の学習に生かしていくためのさらなる工夫をしていく。
- ・ 授業づくりの視点、授業を振り返る視点を改めて整理し、**授業づくりと学習評価の手続きの在り方の再検討**が必要である。

1年次の総括

授業実践を通して、授業づくりや評価に対して教員の多面的で多様な視点で捉えることの有効性を確認できた。どの授業においても、各教科等との関連を押さえ、授業で育成する子供一人一人の資質・能力を明確にすること、学習評価については一教時の学習過程内のみでなく、単元全体における評価を見通した学習計画を検討していくこと、各種指導計画（Plan）、授業（Do）、学習評価（Check）、改善（Action）がサイクルとして連動するためのそれぞれの在り方について検討する必要があることが確認できた。

3. 今年度の研究内容及び研究方法

【重点1】学習評価の視点から「主体的・対話的で深い学び」を検討し、授業改善の方向性を探る。

- 一人一人の育成を目指す資質・能力や一人一人の特性を踏まえた学び方に沿って「深い学び」における「教科等の見方・考え方を働かせて学ぶ姿を具体的に検討する。
- 学習活動を振り返り、資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくりのポイントとそれを支える支援について考察する。

→ 重点1に関連する「学習指導案」については、p 4に記載しています。

【重点2】子供の学びを効果的に授業づくりに生かす手続きを明らかにする。

(日常的、継続的なPDCAの在り方)

- 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標の視点と、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、単元の子供の学びの姿を振り返り、改善につながる記録を残す。また、日常的な取り組みを目指していく。

→ 重点2に関連する「CAミーティング」については、p 6～7に記載しています。

本研究の土台

本研究の背景

平成29年4月の学習指導要領の公示に際し、本校では子供一人一人に学校教育を通してどんな力を育成したいのか、どんな教育を行っていくべきかを話し合い、一人一人が自分らしさを発揮し、生き生きと生活するための様々な力を育成していきたいことを確認した。このことは、学習指導要領が示す、自立と社会参加に向けた資質・能力の育成という考え方も合致している。学習指導要領を踏まえ学校教育目標「みずから学び、かかわり、はたらく人」の具現化を図っていく上で**学びの主体、未来の創り手は子供自身である**ことを全職員で確認し、本研究をスタートしている。

本校の研究実践

本校では授業を子供の視点から考え、その子らしさを大切に主体的な姿を求めて、子供の行動面だけではなく、思考や心理等を含む「内面」に迫る実践を積み重ねてきた。この成果を生かし、**学習評価において、子供の姿を分析的に捉える上で、行動面だけではなく、内面も含めて複数の教員で多面的に捉えることを重視している。**(関連：事後研究会 p 5)

研究主題について

「自己の学びを実感」とは

子供が自ら**興味・関心等の実感**を持って学習活動に取り組み、**達成感や満足感等の実感**を持つ中で、**学びが深まっていくこと。**

「生活していく姿」とは

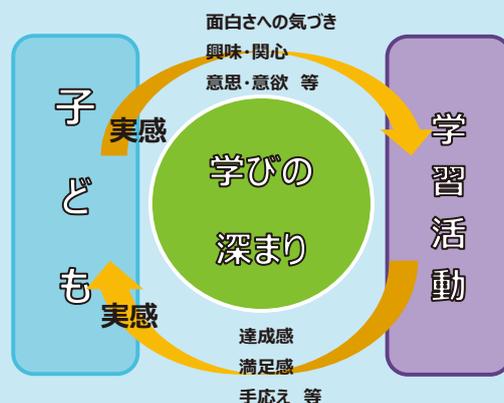
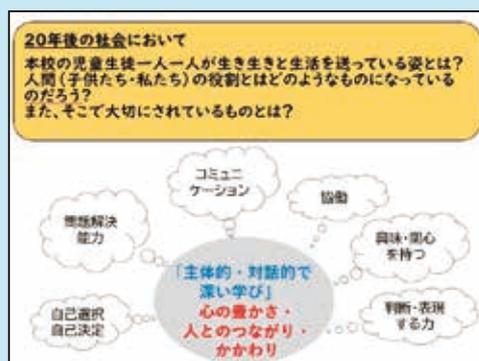
子供が次の学びに向かっていく姿、**学んだことを生かそうとしている姿。**

「学習評価」について・・・ p 4に掲載

「主体的・対話的で深い学び」

学習指導要領が示す考え方を踏まえながら、本校では「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれについて、具体的な児童生徒の姿、授業改善の視点として検討し、学習指導案に明記している。

→「主体的・対話的で深い学び」についての具体例は、実践①②③ (p 8-15) をご覧ください。



学習評価 - 子供の学びと学習評価の視点からの授業改善 -

【学習評価について】※本校の捉え

- ・ 教師にとっては、**子供たちの学習の成果を的確に捉え、一人一人の子供の学習の成立及び指導の改善を図る**ため
 - ・ 子供にとっては、**自己の学びを振り返って次の学びに向かう**ため
- 子供が、自ら興味や意欲等を持ち、手応えを感じながら、教科等の学びを深めていくためには内面の見取りが不可欠であり、その過程を支えるのが「学習評価」である**と考える。

【A面】単元についての細案

<p>1 単元名「 」</p> <p>2 単元について (1) 児童生徒について (2) 単元内容</p> <p>3 目標 (全体目標) (1) 【知識及び技能】 (2) 【思考力、判断力、表現力等】 (3) 【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>4 単元における主体的・対話的で深い学びの視点 【主体的な学び】 【対話的な学び】 【深い学び】</p>	<p>5 単元計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教時</th> <th>月日</th> <th>学習活動</th> <th colspan="2">関連する資質・能力 (3)は単元全体を通して関連</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>(1)</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>6 場の設定</p>	教時	月日	学習活動	関連する資質・能力 (3)は単元全体を通して関連		1			(1)	(2)	2					3					4					5				
教時	月日	学習活動	関連する資質・能力 (3)は単元全体を通して関連																												
1			(1)	(2)																											
2																															
3																															
4																															
5																															

・ 単元にかかわる児童生徒の実態
・ 年間指導計画との関連、各教科等の関連について記載する。

「育成を目指す資質・能力」の三つの柱で目標設定する。

学習活動、単元計画を考える上で各視点での具体的な内容や姿を検討して記載する。

・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点
・ 習得・活用・探究の学習過程等を踏まえて計画する。

内容のまとまりを見通し、学習評価の計画を記載する。

【B面】本時指導案と対象児童生徒補助資料

<p><本時指導案> 単元名「 」 学部 組</p> <p>1 対象児童生徒の単元目標 (1) 【知識及び技能】 (2) 【思考力、判断力、表現力等】 (3) 【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>対象児童生徒 補助資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象児/生徒</th> <th>これまでの実態</th> <th>個別目標</th> <th>指導・支援</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">○ 男 △ さん</td> <td>①知識及び技能にかかわる点</td> <td>①知識及び技能にかかわる目標</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②思考力、判断力、表現力等にかかわる点</td> <td>②思考力、判断力、表現力等にかかわる目標</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③学びに向かう力、人間性等にかかわる点</td> <td>③学びに向かう力、人間性等にかかわる目標</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	対象児/生徒	これまでの実態	個別目標	指導・支援	○ 男 △ さん	①知識及び技能にかかわる点	①知識及び技能にかかわる目標		②思考力、判断力、表現力等にかかわる点	②思考力、判断力、表現力等にかかわる目標		③学びに向かう力、人間性等にかかわる点	③学びに向かう力、人間性等にかかわる目標		<p>2 本時の学習活動</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>学習活動</th> <th>全体にかかわる指導・支援 (○)、留意点 (・)、評価 (☆)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>○ ・ ☆評価 (場面、方法) を記載する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(例) ☆「学習活動○」の場面で、□□していたか。【知識・技能】</p> <p>単元の学習評価の計画、本時の目標、学習活動、評価が全てつながる</p>	時間	学習活動	全体にかかわる指導・支援 (○)、留意点 (・)、評価 (☆)		1	○ ・ ☆評価 (場面、方法) を記載する。
対象児/生徒	これまでの実態	個別目標	指導・支援																		
○ 男 △ さん	①知識及び技能にかかわる点	①知識及び技能にかかわる目標																			
	②思考力、判断力、表現力等にかかわる点	②思考力、判断力、表現力等にかかわる目標																			
	③学びに向かう力、人間性等にかかわる点	③学びに向かう力、人間性等にかかわる目標																			
時間	学習活動	全体にかかわる指導・支援 (○)、留意点 (・)、評価 (☆)																			
	1	○ ・ ☆評価 (場面、方法) を記載する。																			

本時の目標は、学習評価の計画、本時の学習活動を関連させて検討する。

1. 持ち方

－授業参観（VTR 視聴）／付箋記入と貼付－

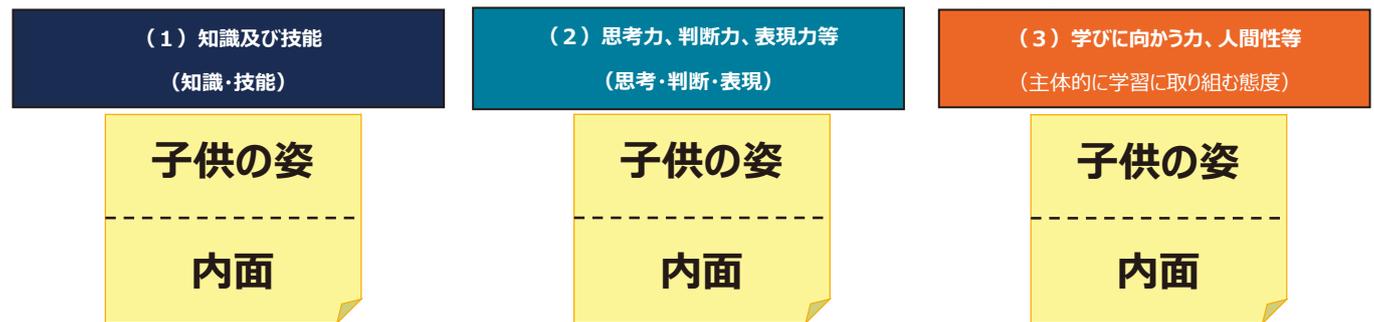
- ①事後研究会開始前まで（ボード準備）
- ②自評（3分）
- ③協議（45分）
- ④各グループ協議の報告（各グループ2分以内）
- ⑤授業者の振り返り（3分）
- ⑥助言（15分）



2. 付箋紙の記入方法

・授業動画は、対象児童生徒を中心に参観

・本時の「☆評価」に関連する姿を記入（子供の姿、内面）※付箋紙の例はp9, 11, 13をご覧ください。

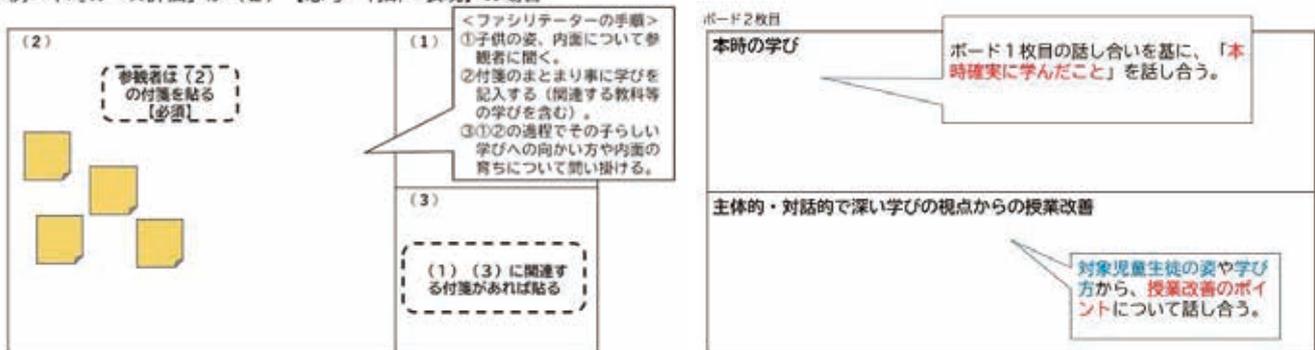


<例> 本時の「☆評価」が (2)【思考・判断・表現】の場合、参観者は (2) の付箋を記入する。(1) (3) に関連する姿があればその付箋も記入可。

3. 協議の仕方

・本時の「☆評価」に焦点化して協議する。

<例> 本時の「☆評価」が (2)【思考・判断・表現】の場合



CA ミーティング — 子供の変容と学習内容、指導支援の一致 —

【CA ミーティングについて】

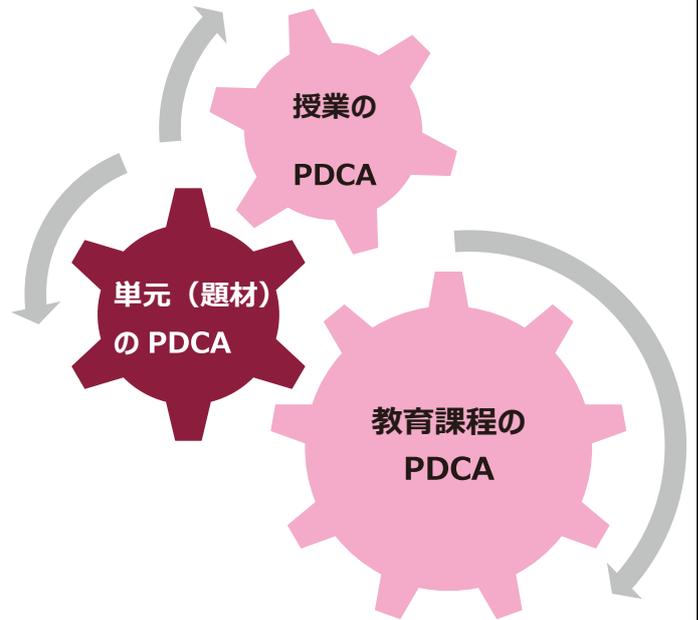
1 CAミーティングとは

学習評価を踏まえて単元計画や年間単元題材一覧等の見直しを行い、授業改善及び教育課程の編成へ反映させていく取り組み。（「CA」は、PDCA サイクルの **C**heck（評価）、**A**ction（改善）の頭文字から）



2 位置づけ

右図に示すように、日々の授業、単元（題材）、教育課程、それぞれのPDCA サイクルは互いに連動している。**CA ミーティングは、単元（題材）のPDCAにあたる。**



3 今年度の取り組み

(1) 対象児童生徒及び教科等について

各学部で今年度の対象児童生徒、中心的に取り組む教科等を決めて、1年間記録する。対象児童生徒の人数や対象教科等の設定は学部内で決定する。

(2) 留意点

- ① 振り返りは学習集団全員について行う視点を持つて行う。
- ② 年間単元題材一覧から全体像を捉え、教科等横断的な視点を持つ。

4 ミーティングの持ち方

月	主な活動	実習の指導の形態					教科別の内容											
		日常生活の指導	生活実習学習	道徳の指導	国語・算数	体育	特別活動	国語	算数	理科	社会	英語	音楽	美術	保健体育	総合		
4	※ 目標は、個別の指導計画～自立活動の指導～の欄を大きくください。	・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
5		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
6		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
7		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
8		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
9		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
10		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
11		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
12		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
1		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
2		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		
3		・生活（挨拶、靴の履き方、手洗いの仕方、掃除の仕方）	「生活実習」 ・生活実習 ・生活実習	「道徳」 ・道徳 ・道徳	「国語・算数」 ・国語 ・算数	「体育」 ・体育 ・体育	「特別活動」 ・特別活動 ・特別活動	「国語」 ・国語 ・国語	「算数」 ・算数 ・算数	「理科」 ・理科 ・理科	「社会」 ・社会 ・社会	「英語」 ・英語 ・英語	「音楽」 ・音楽 ・音楽	「美術」 ・美術 ・美術	「保健体育」 ・保健体育 ・保健体育	「総合」 ・総合 ・総合		

年間単元題材一覧を活用し、対象児童生徒、対象の各教科等を設定し、単元を振り返る。子供の学びの姿（学習評価）から、単元の改善点について記載していく。学部毎に、ミーティング時間を設定する。（月1回程度）

【CAミーティングの実際】

今年度は、学習グループや学級ごとのグループに分かれ、対象生徒を1名決めてその生徒の学習の様子を中心に単元の振り返りを行ってきた。形式や取り組み方等の詳細は決めず、各教師の取り組みに任せて実施している。

取り組み例1：中学部1学年のCAミーティング（授業実践③と関連）

	<p>い。活動の内容を視覚的に示すことで、理解できる様子も見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを発表する際、つがやくような伝え方で話す。 ・完を触るなどの汚れる活動が苦手であるが、教師や友達と一緒に取り組んだ。 →クロムブックなどによる調べ学習に加え、人に聞く、実際に体験するなどの活動をバランス良く取り入れていく。調べたこと、体験した感想などを発表する活動も取り入れていく。活動内容を提示するなど、視覚的な支援を行う。 「山形博士になろう①～さくらんぼ・そば」 ・さくらんぼの種類や採り方などを調べる学習では、2人と3人のグループに分けて取り組んでことで、距離は少なかった。クロムブックにキーワードを入れて検索したり、本などの資料から必要なことを抜き出して調べたりすることは難しい。穴埋め形式のプリントに対して、答えとなるところにアンダーラインを引いた資料を準備すると、スムーズに取り組むことができる。課題は早く終わらせた気持ちは強い。 →同じような調べ学習を繰り返していけば、支援を減らしていっても、調べ学習が定着していくのではないかと。 ・調べ学習で、「これはどうだろう?」「分かった!」という実感をもつことは難しいが、問い掛けに対して、「こう答えるんだ」ということは理解できる。また、上の方のさくらんぼがおいしい、というのを見ており、さくらんぼ狩りの際に話したり、自ら脚立に登ったりする様子が見られた。 →興味を持って取り組める、「分かった。調べて良かった。」を実感できる内容の課題設定。調べたことが体験につながる調べ学習。 ・発表意欲はあり、みんなの前で発表したいが、声の大きさなどが課題。書いてある文や数字を読むことが難しい。 →本人の意欲を大切に、発表の場面を設けていく。動画を見直すことで、発表の仕方、読み間違いなどに自分で気付く手立て。 ・ものを作るような活動だと、クラス全体が主体的に取り組むことができる。また、黒板に予定を書き、1時間の見通しを持たせることが有効だった。 →クラス全体が、課題に取り組める学習内容を、環境を設定し、みんなで取り組んでいくことで、本生徒の主体的な取り組みに繋げていく。 「山形博士になろう②～ぶどう」 ・製作活動の手順を示したり、同じ活動に繰り返し取り組んだりしたことで、活動に見通しを持って、自分から取り組むことができた。手元を見てじっくり取り組むことが苦手だが、ビー玉をくるんだ布を「ムで巻き付けたり、目印にそって波縫いをしたりするなど、よく見て自分ですることが増えた。 ・ぶどうが好きなので、ぶどうでやりたいと言っていたが、タマネギの黄色を見て驚き、「これをやってみよう」という気持ちになった様子が見られた。模様の付け方ビー玉をくるむ方法をくりかえしていたが、周りの友達を見て、模様を付けてみるなど、考え方も広がった。
--	--

【対象児童生徒】P女1さん
【対象の各教科等】生活単元学習
「学校体験をしよう」

- ・カードを探して並べ、答えを考える、というミッション的な活動に取り組んだことで、カードを校内で探す活動に主体的に取り組むことができた。
- ・見つけてきた平仮名カードを並べ変えて、答えを見つけた活動については、初めは目的を理解できずいたが、回数を重ねることで、やり方や目的を理解し、友達と話をしながら考えることができた。
- ・答えが合っているかを職員室の先生に聞くに行く活動では、初回は職員室に入らなかった。2回目以降は職員室に入ることができた。
- 主体的に活動に取り組めるように、ミッション的な活動を準備する。同じ活動に繰り返し取り組むことで、活動に見通しをもてるようにする。初めての活動、場所し不安を示すため、様々な活動を経験していく。
- 「山形の美味しい食べ物調べよう」
- ・クロムブックや本、資料で調べ学習を行った際は、「ぶどう」など、自分の好きなものや興味のあるものに取り組んだが、興味のないものには取り組まな

取り組み例2：高等部1学年のCAミーティング（授業実践④と関連）

	<p>「山形再発見!～伝統工芸～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この日の始末と調査体験を企画・準備する2つのグループに分かれて進める。話し合いでは、自分から意見を言うことが難しかったが、聞かせることができた。 ・体験活動の準備では、役割分担をすることで自分の役割には集中して取り組むことができた。 ・この日の始末と調査体験では、実際に手本を見るなどから説明してもらったことで、自分からどんなことと手順に沿って活動することができた。その中で、自分で思い通りに進めたいものも自分で決めて取り組むことができた。 ・学習のまとめでは、分かったことや思ったことを結構整理したが、手が遅くなった。教師と自分から話をやりとりすると次々に進んでいった。 → 自分の意見を持ちたり考えたりする経験を積み重ねる。 → 学習活動に興味や関心を持ちたり、「こうしたい」という思いをもったりする。 → 学習したことや自分の考えを整理したり表現したりする力を付けていく。 <p>「高1パラリンピックをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 新型コロナウイルス感染症対策による内容変更に伴い、急遽行った学習。 ・少しは自分から意見を述べたり質問したりすることができた。 ・シリアンピックというテーマでは、自分から思い通りに進めたいものも自分で決めて取り組むことができた。 → 知っていることは自信を持って答えられるので、既習事項や生活に結び付けて導入を行う。 「災害から命を守ろう」 ・まずは、避難行動について知っていることを確認することで、自分の知っていることをどんどん挙げた。 ・知っていることと学習して分かったことを比べることで、新たな気付きや自分の知っていることが増えたことを実感した。 ・体験を通して、適切な避難行動とその理由について考え、理解することができた。 ・「災害は怖い」という感情を表現することで、「自分の命は自分で守らなければならない」という必要感を踏まえて学習に向かうことができた。 ・自分の防災リポートを自分で作ることで、必要事項を自分で判断したり決めたりできた。 → 本人が必要感を持って取り組めるような学習を設定する。 「前期のまとめをしよう」 ※ 新型コロナウイルス感染症対策による授業実践④の変更に伴い、ホームルームの中で継続的に取り組んでいる単元の振り返りと合わせて取り組んだ。 「山形再発見!～スポーツ～」 「山形再発見!～食文化～」 「山形再発見!～まとめ～」 「卒業生を送る会を成功させよう」 「1年間のまとめをしよう」 <p>【対象生徒】O男1さん 【対象の各教科等】生活単元学習 ☆調べることはできることや有効そうな学習で、予備は課題。失敗は今後の参考に付けて。</p> <p>「スタートをきろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介カード作りでは、名前や出身小学校などの項目はすぐに書くが、好きな○○など自分で自由に書く部分が多かった。友達の内容を紹介したり教師から質問したりすることで、それらの部分も進捗することができた。 ・自己紹介カードの作り方を教わった。「好きな食べ物」に料理名を挙げたり、「おすめスボット」に名前や場所を全部記入しようとした。 ・タブレット端末の操作については、自分で入力には慣れているが、印刷や写真の取り方は難しく、授業カードに入力するまで大変だった。教師の発見をそのまま入力する。また、授業カードの取り方が分からず、ページタイトルだけを写真する。 ・学習の振り返りについての内容に合った結果を書くことができた。自分の好きな絵の輪郭を何枚か書き、ナンバリングした。 → 手本等を提示して活動への見通しを持ってもらうようにし、その上で必要に応じて個別に教師とやり取りしながら自分で考えられるようにしていく。 → PCにとらわれず、紙媒体の資料を活用していく。 「地域のマップを作ろう」 ・グループの話し合いに書くことができなかった。また、教師が話し始める前に活動を始めし、結果的に間違ったり時間と違ったりしてしまったりすることがあった。 ・危険な場所を探す活動では、入江川に注意して景色を見ていた。教師が今までのことを思い出して確認し、自分から危険な場所を探そうとした。しかし、道の入江川付近の地図を見ることができなかった。 → やるべきことが分かりやすい指示の出し方、周囲の様子を手探りにする。 → 自信を付けられるような言葉掛け（約賛の仕方）をしていく。 → グループで話し合ったり、自分たちで決めていく活動を取り入れる。
--	---

授業実践① 高等部 数学科 「バザー会計のプロになろう」

単元の概要

3年生、2年生が2名ずつの学習グループである。乗法については、筆算で4桁同士の計算ができる生徒、九九が曖昧な生徒と実態差はあるが、乗法の学習をしてきている生徒たちである。しかし、バザーの売上げ計算では「 $100 \times \bigcirc$ 」ではなく「 $100 + 100 + 100 + \dots$ 」のように計算する等生活場面で乗法を使う姿は見られない。そこで、本単元では乗法の意味や乗法を用いると正確に計算できる良さに気付くことで、乗法についての理解を深め、生活の中でも活用できる力を身に付けたい。

単元目標

知識及び技能	加法や減法、乗法を使う適切な場面が分かる。
思考力、判断力、表現力等	より正確に計算するためにはどうすれば良いか考えたり、友達に伝えたりする。
学びに向かう力、人間性等	より正確に計算することで自信を持ちながら、自分から計算しようとする。

単元における主体的・対話的で深い学びの視点

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が実際に経験したことのあるバザーの場面を設定することで、より正確に計算ができるようになりたいという思いを持ちながら意欲的に学習に向かえるようにする。 計算方法を発表したり、学習の振り返りをしたりする機会を設けることで、自分の考えを整理し、自身の学びを実感しながら学習できるようにする。 電卓を使うことで、苦手な計算にも進んで取り組めるようにする。
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝える場を設定することで、計算の意味や、自分なりの計算の方法について筋道を立てて振り返り自分の考えを深められるようにする。 ①自分でやってみる、②やり方を伝える、③友達のやり方を参考にして再度やってみる、という流れを繰り返すことで、友達の意見を受けて自分の考えを広げたり、自分の考えに自信を持ったりできるようにする。
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> 加法、減法、乗法の意味や性質を知った後、実際のバザーの場面でどのように使っているのか考える機会を設定することで、数学で学んだことの良さに気付き、生活に活用することにつながるようにする。

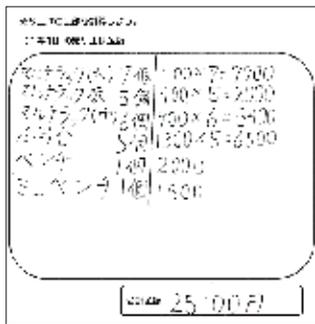
単元計画

1	・ バザーの売れた製品の個数を調べる。(加法)	7	<ul style="list-style-type: none"> 個数の数え方がどう変わったか振り返る。 売れた製品の個数の差を調べる。(減法) 自分の考えを友達に説明する。
2	・ 自分の考えを友達に説明する。	8	・ バザーの売上げの金額を調べる。(加法、乗法)
3	・ 友達の説明を受けて他のグループの売れた製品の個数を調べる。(加法)	9 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の計算方法を友達に説明する。 計算方法の説明を受けて他の学期の売上げの金額を調べる。(加法、乗法)
4	・ 売れた製品の個数の内訳を調べる。(加法)	10	・ 実際にバザーの会計をして製品の金額を計算する。(加法、減法、乗法)
5	<ul style="list-style-type: none"> 売れた製品の個数の内訳を発表する。 他のグループの売れた製品の内訳を調べる。 	11	・ 実際にバザーの会計をして製品の金額を計算する。(加法、減法、乗法)
6	<ul style="list-style-type: none"> 自分の数え方を説明する。 内訳の個数を足して合計の個数と合っているか確かめる。(加法) 	12	<ul style="list-style-type: none"> 実際にバザーの会計をして製品の金額を計算する。(加法、減法、乗法) 学んだことを振り返る。

本時の学習活動と学び

目標（対象生徒）

- (1) 加法や減法、乗法を使う適切な場面が分かる。
- (2) より正確に計算するためにはどうすれば良いか考えたり、友達に伝えたりする。
- (3) より正確に計算することで自信を持ちながら、自分から電卓等を使って計算しようとする。

学習活動	学びの姿（生徒の様子／付箋紙）
<p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>2 本時の予定を知る。</p> <p>3 令和2年度木工グループ3学期の売り上げ金額の計算方法を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E男2さん、B男2さん、H女3さん、L男3さんの順で説明する。 <div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>☆ 売り上げ金額の計算方法や理由を説明できているか。 【思考・判断・表現】</p> </div> <p>4 3学期の箸（杉）の売り上げ金額を再度計算する。</p> <p>5 令和2年度木工グループ1学期の売り上げ金額を計算して発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E男2さん、B男2さん、H女3さん、L男3さんの順で説明する。 <div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>☆ 友達の意見も参考にしながら、より正確に計算する方法を考えながら売り上げの金額を計算しているか。 【思考・判断・表現】</p> </div> <p>6 終わりの挨拶をする。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>かけ算を使うと時間がかからないと説明した。 【思考・判断・表現】 個数が多いときは、かけ算を使った方が答えを早く求められそう。</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>売り上げが1個の製品は計算をしないで売り上げ金額を書いた。 【思考・判断・表現】 ベンチとミニベンチは計算しなくても売り上げ金額を出せそう。</p> </div>

指導助言

【助言者：本校校長 川田栄治】

- ・ この時期に、この生徒たちになぜかけ算の学習をするのかを説明できることが必要。このグループの4名がこれまでどんな学習をしてきているのか、何が分かっているのか、次は何を学習していくのかを明確にして学習計画、授業を行っていく。その際、学習内容の根拠となるのが学習指導要領。学習指導要領は学びの地図。学びの履歴（個別の指導計画）を捉えることが必要。
- ・ この授業を通してどんな力を育成するのか、資質・能力をおさえていかなければならない。
- ・ ペア学習では、学んだことをアウトプットすることで定着していく。
- ・ U Dの視点での授業づくりの大切さ。「視覚化」、「焦点化」、「共有化」を意識する。本時でいえば、板書では、生徒の思考が見えるようにする（視覚化）、自分の行った計算方法を隣の人に説明する（共有化）、授業の最初に山場を持つてくることで集中につなげる（焦点化）等の改善が考えられる。また、教室環境として、ホワイトボードの周辺の視覚情報の整理（掲示物の必要性）を再検討していく必要がある。

実践を振り返って

対象生徒は、バザーの売り上げ金額を計算するときに加法を使って計算をし、どこまで計算したか分からなくなって困った経験をしていた。友達の考え方を聞くことで、乗法を用いて売り上げ金額を求めると早く計算できることに気付いた様子であった。本時では同じ商品の売り上げ金額を加法と乗法の2つの方法で計算したことで、「○+○+○」と「○×3」は答えが同じになることを理解した。また、対象生徒は几帳面な性格から、どんなときも一つずつ個数を数えていたが、まとまりを作って乗法を用いて計算することで、効率良く計算できることに気付いた様子だった。その後の面積を求める学習では、マスの一つ一つ数えるのではなく、縦と横の数を数えて乗法を用いて計算する姿が見られた。

今後に向けて、本単元でもぎりを一緒に数えるのみの活動だったペア学習の在り方を検討し、自分の考えを説明したり、相手の考えを聞いたりする機会として設定することで、知識の定着や考え方の幅を広げられるように工夫して取り入れていきたい。

授業実践② 小学部 国語・算数「ともだちずかんをつくらう」

単元の概要

5年生2名、6年生1名の学習グループである。話すこと、聞くことに関しては、教師とのやり取りを通し、自分の気持ちに合う言葉や表し方を一緒に考えて自分の気持ちを表現しながら活動している。生活の中で伝えたい思いがある一方で、自分の気持ちに合った言葉が出てこない児童や、かかわり方が分からず、一方的なかかわりになる児童もいる。そこで、本単元では質問の仕方や答え方が分かり、身近な人への興味・関心が高まることで、言葉によるコミュニケーションを豊かにし、身近な人と自分からかかわろうとする力を身に付けたい。

単元目標

知識及び技能	友達に聞きたいことの質問の仕方や自分の好きな物の答え方、自分や友達の好きな物についての言葉、自分や友達にかかわる数が分かる。
思考力、判断力、表現力等	友達に質問した経験や相手とのやり取り、友達の質問する様子を手掛かりに、質問の仕方を考え質問したり、質問に応じて答えたり、好きな物や自分、友達にかかわる数を書き表したりする。
学びに向かう力、人間性等	もっと知りたい、伝えたい、聞いたことを書きたいという思いを持ち、活動しようとする。

単元における主体的・対話的で深い学びの視点

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達等身近な人のかかわりや、慣れ親しんだ図鑑（Gakken「こどもずかん777 英語つきしゃしんバージョン」）を使った活動を取り入れた学習を設定することで、様々な友達とかかわりたい、聞いてみたいという意欲を持って活動できるようにする。 「質問する」、「聞き取ったことを書く」という流れで活動を繰り返していくことで、活動に見通しを持ち、自分から活動できるようにする。
対話的な学び	<p>グループの中で教師や友達と質問をし合ったり、教師が児童の言葉を板書したり、イラストカードを提示したりして共有することで、様々な質問の仕方に気付けるようにする</p> <p>書いたものをグループで一つの「ともだちずかん」としてまとめていくことで、友達の質問したことや聞き取ったことを知り、新たな知識を得たり、興味関心を広げたりできるようにする。</p>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> 生活に身近な教材（図鑑）を使ったり、生活の中で生かせるやり取りを行ったりしていくことで、学校生活の中で図鑑を使って調べたり、やり取りを行ったりして言葉の意味や働きをより理解できるようにする。 好きなものを伝えたり、聞いたりすることを中心とし、教師、友達等様々な相手と言葉を使ったやり取りを繰り返していくことで、言葉の意味や働きに着目しながら、相手に伝えたいことを自分なりの言葉を使って表現できるようにする。

単元計画

1	「ぼくの、わたしの好きなもの」 ・ 自分の好きな物を書く。 ・ 友達や教師に向けて好きなものを発表する。	5	「せんせいずかんをつくらう」 ・ 先生に質問しに行き、聞き取ったことを書く。 ・ 書いた物を一つの紙にまとめ、「せんせいずかん」を完成させる。
2、3	「好きな〇〇はなんですか？」 ・ 質問することを考える。 ・ 友達や教師と好きな〇〇を質問し合う。 ・ 友達の質問の様子を見て良かったところを伝え合う。 ・ 聞き取ったことを書き、一つの紙にまとめる。	6 (本時) 7～13	「ともだちずかんをつくらう」 ・ 質問することを考える。 ・ 他の学習グループの児童に好きなものを聞きに行く。 ・ 聞き取ったことを書き、一つの紙にまとめ、「ともだちずかん」を作る。
4	「せんせいずかんをつくらう」 ・ 「せんせいずかん」を見る。 ・ 先生に質問しに行き、聞き取ったことを書く。 ・ 書いた物を一つの紙にまとめ、「せんせいずかん」を完成させる。	14、15	「ずかんをかざろう」 ・ 「ともだちずかん」を紹介するポスターを書き、「ともだちずかん」と一緒に廊下に飾る。

本時の学習活動と学び

目標（対象児童）

- (1) 好きな物や嫌いな物の質問の仕方が分かる。
- (2) 友達に質問したい内容を考え、これまでの経験や友達の質問する様子、相手とのやり取りを手掛かりに、質問の仕方を考えて質問したり、聞き取ったことを書き表したりする。
- (3) 友達に質問する活動を通して、自分からやり取りをしようとする。

学習活動	学びの姿（児童の様子／付箋紙）
<ol style="list-style-type: none"> 1 始めの挨拶をする。 2 前時の活動を振り返る。 3 本時の学習活動を知る。 4 質問することを決める。 5 友達に質問をしに行く。 <p style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px;">☆ 「学習活動 5」で、友達や教師に質問した経験や友達の質問する様子、相手とのやり取りを手掛かりに、質問の仕方を考えて質問しているか。【思考・判断・表現】</p>	 <p style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px;">嫌いな虫を聞いたあと、「どうしてですか。」と理由を聞いた。 【思考・判断・表現】 どうしてかな、きいてみたいな、「どうして。」と聞くといいんだ、聞いてみよう。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 6 聞き取ったことを書く。 7 書いた物を「ともだちずかん」にまとめ、見合う。 8 次時の予定を知る。 9 終わりの挨拶をする。 <p style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px;">☆ 「学習活動 6」で、聞き取ったことを平仮名で正しく書き表しているか。【思考・判断・表現】</p>	 <p style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px;">「け」と「さ」の手本を見て、「さ」を一端消し、手本をよく見て書き直した。 【思考・判断・表現】 あれ、「さ」って書いたつもりなのに、「け」になってる、直さなきゃ。こうやって書くといいんだ。</p>

指導助言

【助言者：山形県教育センター特別支援教育課長 森 豊 氏】

- ・ 教師が一人一人の発言、行動に対して、よく聞き、丁寧に対応することで、やりたいこと、困ったこと、考えていること等、自分の思いを全員が自分の言葉で話すことができていた。
- ・ 書けない平仮名があったときの子供の学び方として、自分で調べる方法もあるとよい。
- ・ 子供の活動を増やす（本を取りに行く、受け取る、張る、筆箱を渡す、両面テープをはがす、学習プリントを貼る等）ことで、それぞれの場面で「できたね！」の言葉が掛けられた。
- ・ 「ずかん」が単元の中心にあるべき物と考えたと単元の最初に見本として、完成品を見せる方法もあるのではないかと。（日々の学習を積み上げると「ずかん」になる方法が今回の単元構成）

【共同研究者：山形大学地域教育文化学部 講師 池田 彩乃 氏】

- ・ 好きな物が同じときに教師が「同じだね。」と言ったり、なぜ好きなかの理由等を聞いたりすることで、子供たちが「聞かれて嬉しい。」「もっと聞きたい、聞いて欲しい。」という気持ちを感じ意欲を高めていった。一方で子供たちの実態として、「自分のことをもっと聞いて」という気持ちの方が強いと見受けられた。自分の好きなもの、嫌いなものをたくさん話すという活動が先にあっても良い。
- ・ 単元の中での系統性を意識する。「聞く人を変えていく、広げていく」という横の広がりも大事だが、同時に教科として次の段階を見通して単元計画を立てる視点もある。

実践を振り返って

対象児童は、好きな物や嫌いな物を友達と質問し合ったり、身近な教師に質問をしたりする中で、質問の仕方を覚えた。本時では、図鑑を見せながら「嫌いな虫は何ですか。」「大好きな恐竜は（何ですか）。」と、聞いてみたいことを考えて質問したり、相手が答えたことに対し、「どうしてですか。」と、その答えの理由を聞いたりする姿が見られた。単元を通して、これまでに得た知識を使い、自分なりの言葉で質問することができた。また、自分の質問に相手が答えてくれたことが意欲や自信につながり、日常の中でも友達と図鑑を使って好きな物や嫌いな物を質問し合う姿が見られるようになった。

今後に向けて、児童が様々な言葉に触れ、語彙を豊かにし、言葉で相手に気持ちを伝えたり、相手の伝えたいことを考えたりできるように、学びのつながりを意識した単元を計画していきたい。

授業実践③ 中学部 生活単元学習「手作り米を届けよう」

単元の概要

本学級は、男子3名、女子2名の計5名である。これまで取り組んできた生活単元学習の中では、体験活動に興味や関心を持つ生徒が多く、意欲的に学習に取り組む姿が見られる。山形県で有名な食べ物について調べた後、自分たちで育てられそうなものとして、バケツ稲で「米」を育てる活動を行ってきた。本単元では、種もみから育てた「米」を収穫し、脱穀や精米等を行う。自分たちが普段食べている米が、どのように成長して食べられるようになるのかを知り、他の農作物にも興味を広げたり、食べ物を大切にしようとする気持ちにつなげていきたい。

単元目標

知識及び技能	育てた米がご飯になるまでの過程を知る。
思考力、判断力、表現力等	稲の生長について気付いたことや収穫の喜びを表現したり、自分で精米するときに気付いたことを表現したりする。
学びに向かう力、人間性等	米に対する興味や関心を持ち、手作りの米を家族に届けるために、自分から活動に取り組もうとする。

単元における主体的・対話的で深い学びの視点

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで育ててきた「バケツ稲」を教材として使用することで、米に対する興味や関心を持ち、自分から活動できるようにする。 家族に手作りの米を届ける活動を設定することで、脱穀から精米までの活動への意欲を高め、見通しを持って活動に取り組めるようにする。
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と一緒にバケツ稲を育てたり、米を収穫したりすることで、より良い方法について気付いたり、安全に活動するためには何に気を付ければよいか気付いたりできるようにする。 活動を通して感じたことを発表し合ったり、各家庭でのご飯の食べ方や米を食べた感想について発表し合ったりすることで、様々な意見や考え方を知り、自分の考えを広げたり、深めたりできるようにする。 脱穀やもみすりの活動の様子を撮影し、次に活動に取り組むときに比較できるようにすることで、仕上がりややり方について考えを深め、より丁寧に取り組めるようにする。
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> 精米までの一連の活動を繰り返し行ったり、家庭で実際に炊飯して食べたりすることで、学んだことを結び付けて深く理解できるようにする。

単元計画

4月～9月

「土作りをしよう」 ・ 3種類の土を混ぜ合わせ、稲作に適した土を作る。	「種まきをしよう」 ・ 芽が出た種もみを土にまく。	「苗の移し替えをしよう」 ・ 良い苗を選んで一株にまとめ、バケツに移し替える。	「収穫をしよう」 ・ 稲を刈り取り、乾燥させる。
--	------------------------------	--	-----------------------------

1、2	「今までの活動を振り返ろう」 ・ 今までのバケツ稲の活動を振り返る。 ・ 稲を切り取ったバケツから、土を取り出し、根がどのように生えているか観察する。	7、8	「〈手作り米〉の準備をしよう」 ・ 各家庭で持ち帰って食べた米の感想を伝え合う。 ・ 教師が準備した稲を使い、手作り米の精米に取り掛かる。
3、4	「脱穀からもみすり、精米をしよう」 ・ 動画で手順を確認して脱穀、もみすり、精米を行う。 ・ 自分で精米した白米と既成の白米を見比べて、違いを考える。	9～12 13、14 (本時)	「〈手作り米〉を作ろう」 ・ 手順を確認し、「脱穀」、「もみすり」、「精米」に取り組む。 ・ うまくできたところや気付いたことの発表をする。
5、6	「精米した米を炊いてみよう」 ・ 精米した米を使い、実際に炊き、炊き上がりの米を見る。(試食は行わない) ・ 精米等をして初めての感想を書く。 ・ 自宅に持ち帰って食べるための米の用意をする。 ※下校後に米を家庭で食べ、感想をまとめる。	15、16	「届けるための準備をしよう」 ・ 精米した米を袋に入れて飾り付ける。 ・ どんな気持ちで精米したかを手紙に書く。

本時の学習活動と学び

目標（対象生徒）

- （１）自分がやりやすい脱穀、もみすり、精米の方法が分かる。
- （２）脱穀やもみすりができただろうか自分で判断しながら活動する。
- （３）一つ一つの工程ができた喜びを実感しながら、次の工程に自ら取り組もうとする。

学習活動	学びの姿（生徒の様子／付箋紙）
<ol style="list-style-type: none"> 1 始めの挨拶をする。 2 前時の活動を振り返る。 3 脱穀、もみすり、精米に取り組む。 <div data-bbox="114 719 783 864" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆ 「学習活動 3・5」で、稲に米が残っていないか、もみ殻が残っていないかを自分で判断しながら活動しているか。【思考・判断・表現】</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 4 活動している様子の動画を見る。 5 再度、脱穀、もみすり、精米に取り組む。 6 上手くできたところや気付いたことを発表する。 7 次時の活動内容を確認する。 8 片付けと掃除をする。 9 終わりの挨拶をする。 	<div data-bbox="880 568 1129 835" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1174 568 1445 835" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>稲を1本ずつ脱穀し、米が残っていないか見る。 【思考・判断・表現】 米が残っていないから次はもみすりだわ。</p> </div> <div data-bbox="880 857 1129 1104" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1174 857 1445 1104" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もみすりをしても取り切れないもみ殻を手で取り除いていた。 【思考・判断・表現】 なかなかきれいににならないから、手でとっちゃえ。</p> </div>

指導助言

【助言者：山形県教育庁特別支援教育課 指導主事 飯沼 恵 氏】

- ・ 繰り返しの活動に取り組んだことで、活動のゴールが見えており、「届けたい。」「誰に食べてほしい。」等、生徒の気持ちがある授業だった。
- ・ 学習活動のやり方や道具を子供と一緒に探っていくことが大切である。様々な方法を考え、選択する場面を設けていくことで、学習の広がりにつながると考えられる。
- ・ 主体的・対話的・深い学びにつながる授業改善については、どんな力がついたのかを説明できるようにすることが大切である。
- ・ 活動ありきではなく、目標を設定してから、授業を作っていくことが大切である。
- ・ 学びがどこにあるかを考えていくことが大切である。教科の視点を踏まえながら、育成したい資質・能力を大切に、単元計画、年間教材一覧表を作成する等、3年間、6年間を見越して、学習活動を充実させていく。

【共同研究者：山形大学大学院教育実践研究科 教授 三浦 光哉 氏】

- ・ 今回の活動では、バケツ稲の種をまくところから、調理して食べるまで、一連の活動を経験できる単元になっていた。自立的な生活に必要な事柄についても関連付けて考えていけるものになるとよい。
- ・ 「知識・技能」は、学んだ知識をいかに活用して技能にするか、「思考・判断・表現」の判断は、思考の延長線上にあるものであること等を踏まえ、3観点での個別目標を立てていくことが必要である。

実践を振り返って

対象生徒は、これまで自分が食べているご飯がどのように出来ているかについて知らずに何気なく食べていたが、本単元を通して、自分で稲を育て、脱穀や精米をし、炊飯するまでの一連の活動を体験したことで、どのようにして「米」ができていくのかを知ることができた。また、もみすりでは、「手作り米を届けよう」というテーマを設定することで、家族に美味しい米を届けたいという思いを持って、使う道具やボールの動かし方、力の入れ方を変える等自分なりに方法を工夫しながら取り組む姿が見られた。もみすりでもできたもみ殻を残さないように、何度もうちわで飛ばそうとしたり、より飛びやすくするために器を替えてうちわであおいだりした。

今後に向けて、試行錯誤しながら自分で思考や判断をしていく活動を繰り返していくことで、学習内容を自分事として捉え、自己の生活と学習内容を結び付けることができるのではないかと考える。

授業実践④ 高等部 生活単元学習「災害から命を守ろう」

単元の概要

高等部 1 年生は 8 名の学級である。避難訓練やテレビ番組等を通して、身の守り方や避難の仕方はおおむね理解しているが、地震のときはなぜ机の下に隠れるのかということ等の理解には至っていなかったり、学校以外の場所で災害が起こったときに学校で学習したことを生かして避難行動をとることが難しいと予想されたりする生徒が多い。また、どの学習活動においても指示されたことはするが、自分で考えたり判断したりすることが難しい生徒も多い。本単元を通して、防災や自分の命を守ることについて意識を向けるとともに、学習活動を自分事として捉えて考えながら取り組む力や態度が育っていくことを期待している。

単元目標

知識及び技能	防災について学習する意義が分かる。
思考力、判断力、表現力等	災害について調べたり体験したりする活動を通して、自分のできることを考えたり、友達や教師に考えを伝えたりする。
学びに向かう力、人間性等	命を守る大切さを感じ、自分なりに防災について考えながら、進んで学習に取り組もうとする。

単元における主体的・対話的で深い学びの視点

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを「①災害の体験をする、②分かったことやさらに調べたいことを整理する、③調べ学習をしたり、再度体験したりする、④まとめる」という流れにし、体験活動ごとに振り返りを行うことで、生徒が見通しを持ち、自分の考えを整理して次の学習活動に向かえるようにする。 体験の中で実感を伴いながら災害について学習することで、生徒が災害を身近なものと感じ、必要感を持って学習に取り組めるようにする。 「防災ノートを作成する」という活動内容（生徒にとっての学習の到達点）を明確にすることで、生徒がやるべきことを理解したり、学んだことを整理したりしながら、学習を進められるようにする。
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 家族や防災センターの方に災害について質問したり、学習したことを伝えたりし、話し合ったことをもとにまとめることで、災害についての確かな知識を得ることができるようになる。 体験活動ごとのまとめから防災ノートづくりの過程において、分かったことを共有する時間を設定することで、友達の考えから新たな気づきを得たり、自分の考えを確かなものにしたりできるようにする。
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> 災害に関する体験を通して防災について改めて学習することで、既習の知識と新たな気づきとを関連付け、自分の考えをさらに深めたり、生活で活用できる知識として定着させたりできるようにする。 防災ノートに個人専用のページを設けることで、一般的な避難行動や備えに関する知識をまとめるだけでなく、それぞれの住む地域や状況に応じた必要な事や物等を考えられるようにする。

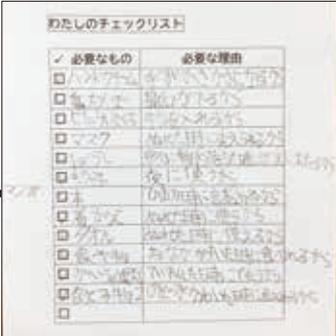
単元計画

1～3	<ul style="list-style-type: none"> 防災の日について知り、身近に起こりうる災害やそのときの避難行動（身の守り方、地域の避難場所、持ち出す物等）について知っていることを伝え合う。 	19～21	<ul style="list-style-type: none"> 持ち出し品と備蓄品の違いについて知り、防災リュックの中身を再度考え、防災ノートにまとめる。 ※午後の避難訓練（地震、火災想定）で、これまでの学習を生かして避難する。
4～9	<ul style="list-style-type: none"> 大雨の実験や体験を通して、土砂災害や洪水等の災害について知ったり、それらの災害の際のより適切な避難の仕方を考えたりし、防災ノートにまとめる。 	22～24	<ul style="list-style-type: none"> 各自の住む地域で起こりやすい災害や避難場所等について調べ、防災ノートにまとめる。
10～15	<ul style="list-style-type: none"> 地震の際の映像や体験を通して、地震の際の適切な避難行動について考え、防災ノートにまとめる。 	25～27	<ul style="list-style-type: none"> 防災センターへ行き、前時までの学習を生かして、地震、煙、消火、通報体験を行う。また、職員の方に自分が考えた防災リュックの中身を紹介してアドバイスを受ける。 ※昼食として、非常食を食べる体験を行う。
16～18 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習をもとに、自分の防災リュック（非常用持ち出し袋）について考える。 	28～30	<ul style="list-style-type: none"> 防災ノートに、非常食について分かったことや気付いたことをまとめる。 防災センターへの校外学習で分かったことをもとに、防災ノートを修正したり書き加えたりする。

本時の学習活動と学び

目標（対象生徒）

- (1) 防災について学習する目的に気付く。
- (2) 学んだことを活用して自分の考えを持ち、体験活動の中で実行したり、友達や教師に伝えたりする。
- (3) 自分の命は自分で守るという意識を持ち、自分から体験活動や防災ノートづくりに取り組もうとする。

学習活動	学びの姿（生徒の様子／付箋紙）
<ol style="list-style-type: none"> 1 始めの挨拶をする。 2 前時までの学習を振り返る。 3 防災リュックチェックリストを作成する。 4 防災リュックを取りに行く。 5 3で作成した防災リュックチェックリストに沿って、中身の過不足を確認する。 6 自分の防災リュックの中身の過不足や3で作成したチェックリスト以外の中身を伝え合う。 7 自分にとって必要なものを考え、自分の防災リュックチェックリストを作成する。 	 <p>自分のチェックリストに、「もうふ夜に使うから。」と書いた。 【思考・判断・表現】 家に帰れない場合もあることが分かった。それなら、学校や避難所に泊まる時に毛布があると良いな。</p>
<p>☆ チェックリストや友達の防災リュックの中身を手掛かりに、自分にとって必要なものやその理由を考えているか。 【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 8 次時の予定を確認する。 9 終わりの挨拶をする。 	 <p>自分のチェックリストに「本ひまの時に読めるから。」と書いた。 【思考・判断・表現】 初めはいらないと thought けれど、暇なときに時間を潰せるものがあると良いな。</p>

指導助言

【共同研究者：山形大学地域教育文化学部 教授 大村 一史 氏】

- ・ 感情を使って学習意欲をコントロールできていた。対象生徒に限らず、どの生徒も「災害は怖い」という気持ちに留まらず、「備えておくことの必要性」を感じることで、自分事として授業に取り組むことができていた。
- ・ 知識として教えるのではなく、実体験を持って学習することで頭に入りやすく、定着もしやすくなる。

【助言者：山形県教育庁特別支援教育課 主任指導主事 伊東 達 氏】

- ・ 災害に対する危機感や必要感を持って学習に臨めていたので、140分という長い授業が成立していた。
- ・ 対象生徒は友達の意見に賛同するだけでなく納得しないところはしないという姿が見られ、自分事として学習することで、習得したことが生活に生きる知識につながる。
- ・ 防災リュックに入れる物の種類だけでなく、量や大きさ等の優先順位を考えることで、より生徒の思考力や判断力が働く。
- ・ 子供たち一人一人が現在持っている認知を揺さぶって行動を引き出すことを大事にし、既習事項であっても「あれ？違うな。」と感ずることが新しい学びへつながっていく。
- ・ （本校が大事にしている）内面は、できないことではなく「できる」ことに目を向けていくことが大事である。また、行動は変容があるが、その行動の裏にある見えない心（気持ち）の揺らぎを大切にすることが必要である。
- ・ あくまでも各教科等の3つの柱の力の育成が大切であり、主体的・対話的で深い学びはその達成のための手段である。

実践を振り返って

対象生徒は、導入で学習の目的や流れを確認した際、どこか他人事を受け身的な学習態度であったが、災害の映像を見たり既習の避難行動を試してみたりすることで、「このままでは自分の命を守れない」と学習を自分事として捉え、「災害から命を守る」という学習の目的を理解して、体験したことをもとに自分で考えたり判断したりすることができた。また、体験を繰り返して、分かったことを整理していくことで、既習の知識と新たな気付きとを結び付けて考え、安全な生活についてより生活に生きる知識を身に付けることができた。

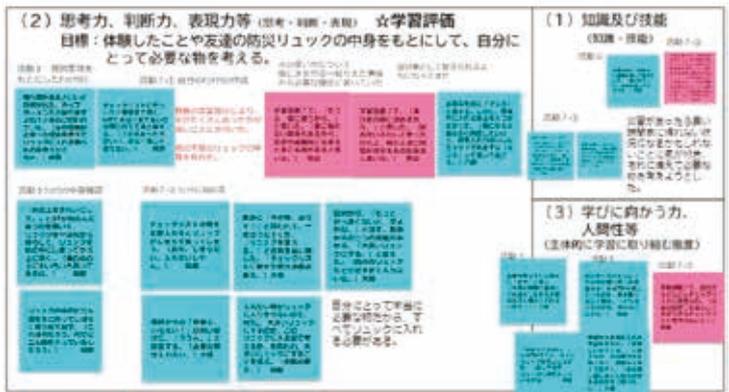
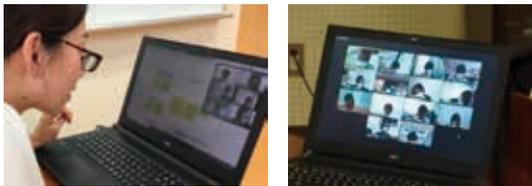
今後に向けて、本時では教師が中心となって話し合いを進めたが、グループごとに話し合い、提案する活動等を設定することで、生徒が考えたり、表現したり、判断したりできるようにしていきたい。

オンラインを活用した研修会について

昨今の社会状況から、本校でも今年度よりオンラインを活用した研修会を試行錯誤しながら開催してきました。オンラインを活用することは遠方の先生方にも参加していただきやすくなるチャンスと捉えたうえで、本校が従前より大切にしてきた参加者の皆様との対話による事後研究会をオンラインでもどうすることができるのかを考えながら実施しました。オンラインによる対話的な事後研究会の在り方について、工夫した点を紹介いたします。

1 Zoom（会議アプリ）および Jamboard を活用した事後研究会

事後研究会では、Zoom のブレイクアウトルーム機能を活用し、少人数（4～6名程度）のグループに分かれて話し合いを行いました。Google アプリの Jamboard という機能を活用し、ファシリテーター（本校職員）がその画面をグループの皆様と共有しながら話し合いを行いました。



2 授業実践紹介

事後研究会対象授業だけでなく、より多くの授業実践について参加者の皆様と共有できるよう、各学部の授業実践を紹介する時間を設けました。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、これまでの単元や授業の取り組みとの比較や生徒の変容等を「before→after」としてまとめ、紹介しました。

3 情報交換

本校にとっても、参加された方々にとってもより有意義な研修会となるよう、参加された先生方との情報交換の時間を設けました。本校職員が進行役を務めながら、各学校での取り組み等について紹介しました。

研究のあゆみ 2021

6月 授業づくり研修会Ⅰ（校内）【本紙 授業実践①】

7月 授業づくり研修会Ⅱ（本校来校参加およびオンラインを同時に実施）【本紙 授業実践②】

11月 授業づくり研修会Ⅲ（オンラインで実施）【本紙 授業実践③】【本紙 授業実践④】

※その他にも、各教員が授業実践を行い、校内研修会や授業づくり研修会の際に実践紹介を行いました。

【指導・助言者】

山形県教育庁	特別支援教育課	主任指導主事	伊東 達 氏
山形県教育庁	特別支援教育課	指導主事	飯沼 恵 氏
山形県教育センター	特別支援教育課	課長	森 豊 氏

【共同研究者】

山形大学	大学院教育実践研究科	教授	三浦 光哉 氏
	地域教育文化学部	教授	大村 一史 氏
		准教授	本島 優子 氏
		講師	池田 彩乃 氏

山形大学附属特別支援学校 〒990-2331 山形市飯田西三丁目2番55号

TEL 023-631-0918

